

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	風さんNICO 保育所等訪問支援		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 21日		2026年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日		2026年 3月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○訪問先施設評価実施期間	2026年 2月 21日		2026年 3月 16日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 13名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校・園と密に連携しながら、現場の状況に合わせた具体的な支援方法を提案できる。	訪問時には担任の先生や支援担任と短時間でも情報共有の時間を設け、児童の様子や困り感を把握するよう努めている。また、訪問記録や口頭でのフィードバックを通して、現場で実践しやすい支援方法の先生のご負担も配慮しながら、共有を行えるように意識している。	職員間でケース共有や振り返りの機会を設けていく。
2	子どもたち一人一人の特性に応じた具体的な間接支援を行い、学校・園での生活の安定や参加を支える支援ができる。必要に応じて、直接支援を行うことができる。	子どもたち一人一人の発達特性や生活状況を把握し、環境調整や関わり方の工夫など、学校生活の中で実践できる支援方法を提案している。	訪問員間でのケース共有や支援方法の検討を行い、支援の質の向上と統一を図っていく。
3	関係機関と連携しながら、子どもの生活全体を踏まえた支援を行える体制がある。	保護者や相談支援専門員と情報共有を行いながら、家庭・学校・事業所が同じ方向性で支援できるよう意識している。	関係機関との情報共有の機会を増やし、継続的な支援体制の構築を目指していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校・園によって連携の深さや情報共有の頻度にばらつきがあり、十分に支援内容が共有できない場合がある。	学校・園の体制や多忙さにより、十分な情報共有の時間が確保しにくいことや、連携方法が統一されていないことが要因として考えられる。	短時間でも効率的に情報共有ができるツールや様式の活用、定期的な情報共有の機会の設定など、連携方法の標準化を図る。この日のこの時間など、具体的にアポをきめておく。
2	訪問員が現状一人であるため、支援内容の客観的な振り返りや多角的な視点での検討の機会が限られる場合がある。	訪問員が現状一人なので、日常的なケース共有や複数視点での支援検討が難しいことが要因と考えられる。	相談支援専門員や関係機関との情報共有を積極的に行い、外部からの視点を取り入れることで支援の質の向上を図る。また、訪問員の増員した場合、ケース共有を行う。
3			